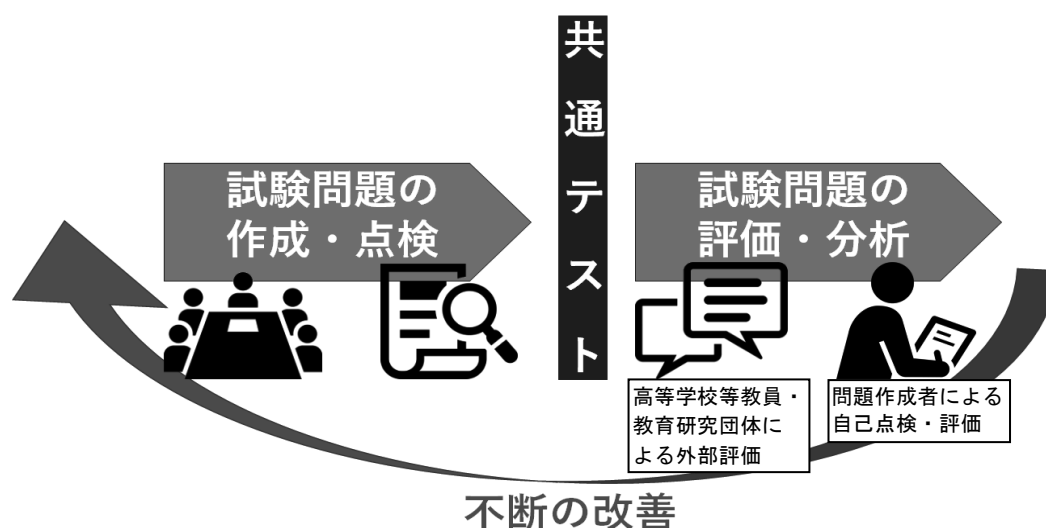


3 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会報告書

大学入試センターでは、試験実施の約2年前に「問題作成方針」を策定し、当該問題作成方針に基づいて、問題作成や点検が行われる。各年の試験終了後、問題の質を高めるため、問題ごとの正答率などの詳細な分析を基に、高等学校等教員・教育研究団体による外部評価と問題作成者による自己点検・評価を実施し、その評価結果を次年度以降の問題作成に活用している。本報告書は、これらの評価結果を掲載したものである。



令和7年度大学入学共通テストは、新しい学習指導要領に対応した試験となった。ただし、旧教育課程履修者への経過措置として一部の科目では、旧課程科目も出題した。

本報告書は、各教科・科目（出題科目）ごとに、次の第1～第3及び巻末資料で構成されている。なお、旧教育課程科目は第3及び巻末資料の内容で構成されている。

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

（大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会による意見・評価）

大学入学共通テスト実施後に、高等学校関係委員による外部評価分科会において、大学入学共通テストの分析資料等に基づき、以下の観点により総合的に評価し、外部評価分科会委員から提出されたものである。

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲^{*1}）
- (3) 問題で使用される資料等^{*2}が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定^{*3}がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）

- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
 (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

- ※1 地理歴史、公民における『地理総合／歴史総合／公共』及び理科における『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することとしているが、ここでは、その中での出題範囲を指すものである
 ※2 教科書等で扱われていない初見の資料等を扱う場合、資料そのものに対する知識を問うのではなく、資料を活用して高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための題材として扱うことを前提としている
 ※3 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

第2 教育研究団体の意見・評価

全国的な教育研究団体に対して、意見・評価の提出を依頼し、回答が寄せられた次の16教育研究団体について掲載したものである。（各教育研究団体は、評価・分析委員会の構成員ではないが、外部評価の一環として各団体のご厚意により回答を頂いているものである）

日本国語教育学会	日本生物教育学会
日本地理教育学会	日本生物教育会
全国地理教育研究会	日本地学教育学会
全国歴史教育研究協議会	日本理化学協会
全国公民科・社会科教育研究会	全国英語教育研究団体連合会
日本数学教育学会	日本独文学会ドイツ語教育部会
日本物理教育学会	情報処理学会
日本化学会	日本情報科教育学会

第3 問題作成部会の見解

（大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 自己点検・分析・評価分科会の見解）

問題作成部会の各問題作成分科会の分科会長・副分科会長から成る自己点検・分析・評価分科会委員が、各科目の問題作成について自己点検するとともに、上記の意見・評価について慎重に検討し、見解を取りまとめたものである。

巻末資料 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会外部評価分科会の評価結果

大学入学共通テスト問題評価・分析委員会外部評価分科会が令和7年度大学入学共通テスト（本試験）の試験問題について、項目別及び総合的観点から適切であったかを4段階で評価したものである。

【凡例】

この報告書では、主な用語について、次のように略記している。

- 大学入学共通テスト 共通テスト
- 大学入試センター試験 センター試験
- 高等学校学習指導要領 学習指導要領